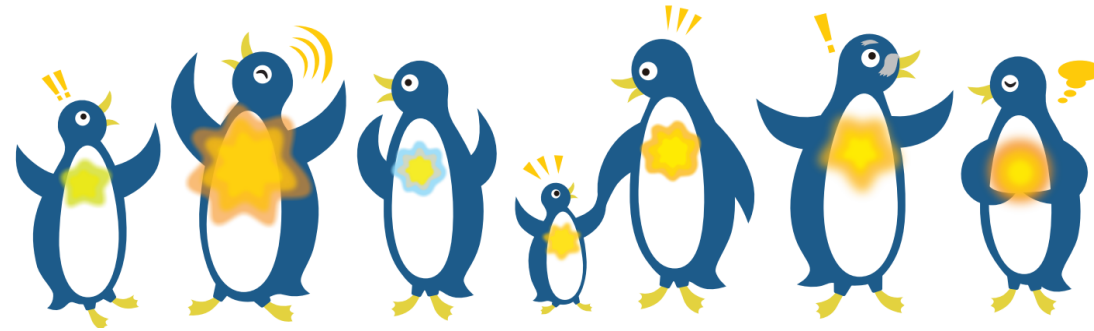


教育振興基本計画の 令和7年度振り返り



令和8年9月



鎌倉市

目次

1.	本資料の目的・構成	P. 3
2.	ワクワクして未来を創る学びを生み出す	P. 6
3.	地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる	P.11
4.	多様性を尊重した学びで共生社会を共創する	P.17
5.	学習者中心の学びを支える環境を整備する	P.24



1. 本資料の目的・構成

2. ワクワクして未来を創る学びを生み出す
3. 地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる
4. 多様性を尊重した学びで共生社会を共創する
5. 学習者中心の学びを支える環境を整備する

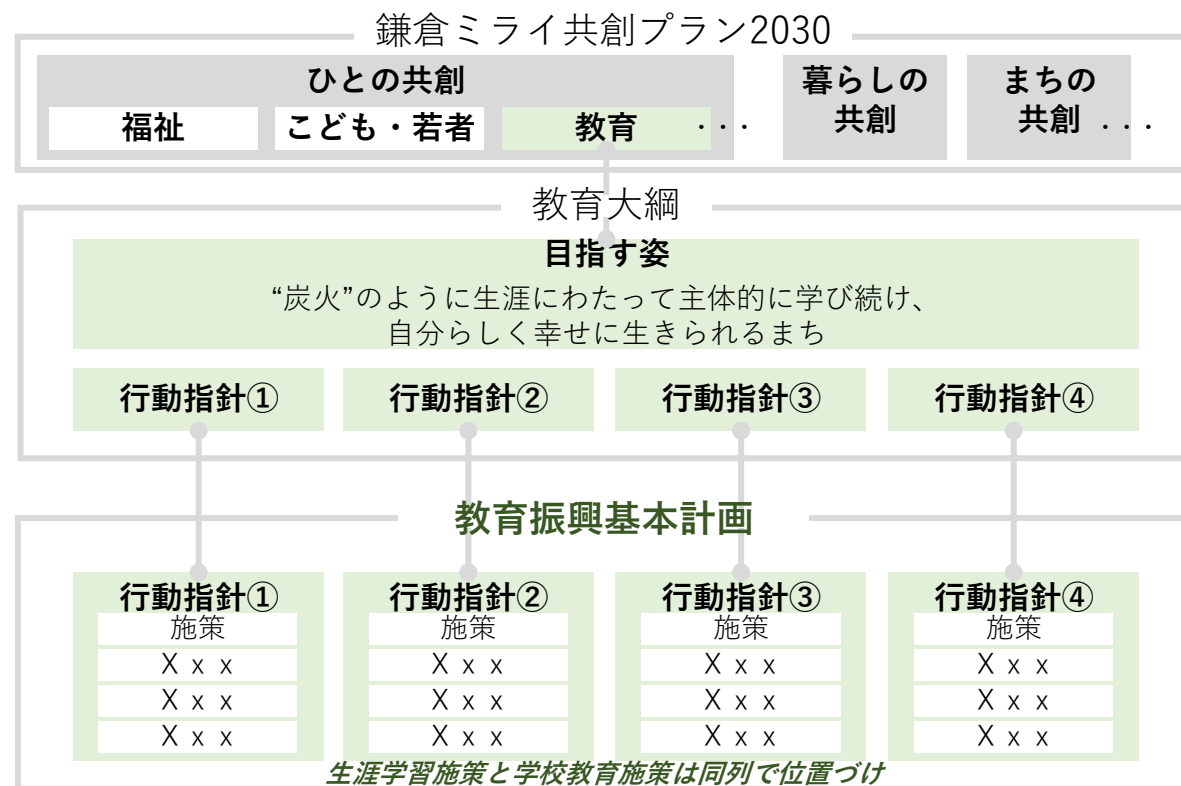
昨年12月、教育大綱に定められた理念を、学校教育から生涯学習まで横断的に政策を推進していくことを目指して、教育振興基本計画を策定。

計画策定の背景

- 2025年4月に教育大綱を策定。「炭火のごとく誰もが学びの火をともし続け、生涯にわたり心豊かに生きられるまち鎌倉」を目指す姿（ビジョン）とし、それを実現するための行動指針（コンセプト）として「**学習者中心の学び**」を位置づけ
- 目指す姿・行動指針は、あくまで政策の大きな方向性であり、教育委員会としてはこれらを実現していくための**具体的な政策を策定・整理していくことが必要**
- これまでは、教育プランや生涯学習プランなど、各担当課において必要な計画を策定してきたが、**今後は担当の縦割りを脱し、教育政策全体を横断的にマネジメントしていく必要がある**

教育振興基本計画の目的・位置づけ

- 各種政策を分かりやすく整理するとともに、計画の管理を効率化するために、教育大綱の下位計画として、**全体の政策を束ねる「教育振興基本計画」を策定した**



教育振興基本計画に位置付けた「施策」ごとに「指標」を設定し、R7年度を取組を振り返るとともに、R8年度の方方向性を導出する。

附則 5.本計画は毎年取組状況を評価し、取組の進捗を教育委員会に報告するものとする。

<具体的なイメージ>

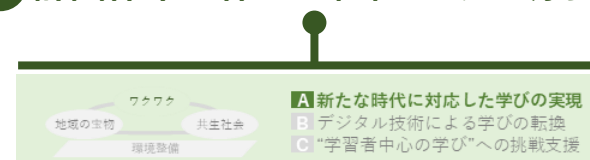
施策 **あ**：スクールラボファンドの推進

施策概要

- ・ スクールラボファンド活用基金の財源を活用し、企業やNPO等と連携しながら、学校における探究的な学びや社会に開かれた教育課程の実現を推進する
- ・ また、取組を持続可能なものとするよう、ガバメントクラウドファンディングのみならず、多様な財源確保を進める

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度を取組/振り返り	R8年度方向性
	・ 市内全校で探究的な学び・社会に開かれた学びに挑戦しており、企業やNPO等との連携が必要な際には、スクールラボファンドを活用できている状態 ・ 多様な財源確保により基金が持続可能に運用されており、問題なく各校を取組を支援できている状態	・ 年間で取り組むスクールラボファンドのプロジェクト数：30プロジェクト ・ 持続可能に得られる年間寄附額：700万円	・ 様々な企業・団体とのコラボレーションを通じて、年間で20プロジェクトを実現 ・ 各学校・教員がより気軽に本施策を活用できるように、年度当初の相談体制が課題に ・ 複数の篤志家からの高額寄附を含め、約1,800万円を獲得 ・ “寄附型自販機”に加えブックオフとの協業などに取り組むも、単発の寄附への依存度が依然として高い状況。持続可能性に課題感	・ 既存メニューの「ミニ(短期支援)」「フル(長期支援)」に、「スタート(検討支援)」を追加 ・ 活用するか否かに問わず、探究的な学びづくりについてのインプットや授業づくりのラフなディスカッションを実施していく ・ 持続可能な資金獲得に向けて、Donor Advised Fundへ参画し、運用型の寄附スキームを構築 ・ この他、「寄附型自販機」をはじめ、更なる持続可能な資金獲得スキームを引き続き模索

① 計画体系全体での位置づけを明示



② 計画に定めた「成功イメージ」に基づき、定性/定量的な「指標」を作成

③ 各指標に応じてR7年度を取組を振り返り、R8年度の方方向性を導出

1. 本資料の目的・構成

 2. **ワクワクして未来を創る学びを生み出す**

3. 地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる

4. 多様性を尊重した学びで共生社会を共創する

5. 学習者中心の学びを支える環境を整備する

施策 あ：スクールコラボファンドの推進

施策概要

- ・ スクールコラボファンド活用基金の財源を活用し、企業やNPO等と連携しながら、学校における探究的な学びや社会に開かれた教育課程の実現を推進する
- ・ また、取組を持続可能なものとできるよう、ガバメントクラウドファンディングのみならず、多様な財源確保を進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
・ 市内全校で探究的な学び・社会に開かれた学びに挑戦しており、企業やNPO等との連携が必要な際には、スクールコラボファンドを活用できている状態 ・ 多様な財源確保により基金が持続可能に運用されており、問題なく各校の取組を支援できている状態	・ 年間で取り組むスクールコラボファンドのプロジェクト数：30プロジェクト	・ 様々な企業・団体とのコラボレーションを通じて、年間で20プロジェクトを実現 ・ 各学校・教員がより気軽に本施策を活用できるように、年度当初の相談体制が課題に	・ 既存メニューの「ミニ(短期支援)」「フル(長期支援)」に、「スタート(検討支援)」を追加 ・ 活用するか否かに問わず、探究的な学びづくりについてのインプットや授業づくりのラフなディスカッションを実施していく ・ 持続可能な資金獲得に向けて、Donor Advised Fundへ参画し、運用型の寄附スキームを構築 ・ この他、「寄附型自販機」をはじめ、更なる持続可能な資金獲得スキームを引き続き模索

施策 い：社会の現代的課題を捉えた学びへの対応

施策概要

- ・ グローバル化、テクノロジーの進展、人生100年時代の到来など、社会の変化に対応する力を身に付けるため、情報活用やSDG s（国際理解、環境教育など）に関する学びを推進する
- ・ 鎌倉市が抱える災害や水難事故等のリスクへの対応として、“防災教育”や“水泳指導”等の充実を図る

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
・ 複雑さを増す社会課題に対応し、必要な学びが学校において提供できている状態	・ 人権・道徳教育や防災教育など、今の鎌倉市のこどもたちにとって重要な学びを提供できている状態	・ 教員の人権意識や防災意識向上を図るため、教員対象の研修会や講演会等を実施 ・ 個々の意識向上につながる一方で、学校全体の取組へと波及させるためには、校内で中心的な役割を担う教員との共通理解が不可欠	・ 若手教員や経験年数の浅い教員が参加する際には、総括教諭やミドルリーダー層の教員にも同じ研修会等への参加を促し、研修成果や内容を校内で共有し、組織的な実践につなげる仕組みづくりを進める
	・ デジタルリテラシー教育や国際理解教育など、新たな時代に対応した学びを提供できている状態	・ 活用型情報モラル教材「GIGAワークブックかまくら」2025版を配信 ・ 活用型情報モラル教育の充実に向け、各学校における効果的な教材の活用方法の共有や定着が課題	・ サキドリ特例校において、小学校からデジタルのリテラシーを学ぶ新教科創設に挑戦。こうした知見を取りまとめ各校とも共有していく ・ デジタルやSNSのリテラシーについて学ぶためのコンテンツ導入に向けた実証を実施予定



施策 **あ**：学びのDXの更なる推進



施策概要

- 全ての小中学生にGIGA端末（iPadのcellularモデル）を配布し、こどもたちがいつでも・どこでも学べる環境を確保する
- 端末を活用した学びを進めるため、ICT支援員の活用や研修等を通じて、教職員のICT活用能力向上を推進する

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
こどもたちが「いつでも」「どこからでも」ネットワークに接続し、一人一台保有しているタブレット端末を活用しながら主体的に学ぶことができている状態	全小中学生にGIGA端末（iPadのcellularモデル）が配布され、活用できる状態	令和7年2月に事業者と契約締結。児童生徒用のGIGA端末（iPadのcellularモデル）を問題なく全ての学校に配備	端末管理を丁寧に推進。故障時には予備機の活用や事業者と連携した迅速な修理で、こどもたちの学びを止めないように対応
	ICT機器を授業でほぼ毎日活用した学校数が増加している状態	AIドリルの活用状況には学校間で差が見られるものの、ICT支援員のサポート等により、ICT機器を授業で活用する場面は増加傾向にある	学校と教育委員会で構成するICT教育推進委員会と連携し、学習の目的に応じた効果的な活用事例の収集や情報共有を推進する
	「紙」と「デジタル」のそれぞれの利点を生かした学びづくりに取り組んでいる状態	基礎・基本の定着はAIドリルで個別最適化し、思考・表現はノートやワークシートで深めるなど、学校訪問や校長会、ICT教育推進委員会等の機会を捉えて、端末の効果的な活用方法や「紙」との使い分けについて周知を行った	学習活動に応じた適切な紙（ノート・教科書等）と端末の使い分けに関する事例の収集や情報共有を推進するとともに、デジタル教材で得られた学習データを授業改善や個別支援に生かせるよう助言を行う

施策 **い**：校務DXの実行

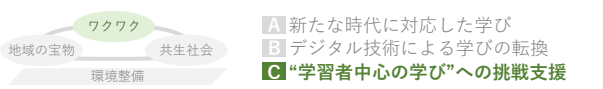
施策概要

- デジタル技術の活用により、教職員が学校内外でスムーズにコミュニケーションが取ることが可能になるとともに、こどもの支援や自らの学びに集中できる環境をつくるために、校務のDXを実行する
- 具体的には、次世代型校務支援システムを導入するとともに、クラウドを前提とした環境の実現、AIの活用などを進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
教職員が多様で柔軟な形で校務を遂行することで、こどもと向き合う時間や授業研究をする時間などが確保でき、教育の質が高まっている状態	教委－学校間、教員間の連絡・データ共有の効率化が図られている状態	汎用型クラウドシステム（Google Workspace）を活用した環境整備の整備方針を決定。Google ChatやDriveを活用したコミュニケーション・ファイル共有の基盤を整備	Google Workspaceのアカウントを整理し、セキュリティ環境を構築の上、全てのファイルをクラウド上にアップロード予定。これにより教員の円滑な校務遂行を支援
	出欠・健康管理や保護者への案内など、教員の校務が効率化されている状態	教員・教委職員による「校務DXプロジェクトチーム」を立ち上げ、教員の校務のデジタル化・効率化を図る基盤となる「次世代型校務支援システム」の仕様書案を作成。	仕様書に基づき速やかに事業者を選定。R9年度導入を目指して現場とも丁寧にコミュニケーションを取りながら検討を推進
	校務の効率化が保護者にとっても便利で、満足なものとなっている状態	小学校において保護者への連絡アプリを導入。学校・保護者間の事務的なやり取りを効率化。 校務支援システムにおいて更に便利にできるよう仕様書を検討	仕様書に基づき速やかに事業者を選定。R9年度導入を目指して現場とも丁寧にコミュニケーションを取りながら検討を推進。導入後は保護者アンケートも予定しており、家庭にとっても便利なシステム環境を推進

施策 あ：学校運営への伴走支援



- 施策概要
- 学校が「働き方改革」や「教科担任制」、「地域・保護者との対話」など、各学校の実情に照らした様々なプロジェクトに学校として取り組むための伴走支援を充実する

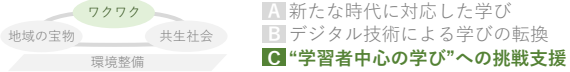
	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	各学校が何らかのプロジェクトに取り組むことで、「日常的な業務への対応」だけでなく「学校としての将来を描く成長戦略」に取り組むことができている状態	全学校に対する伴走支援を実施できる体制が整えられている状態	「学習者中心の学び推進参与」設置の他、教育行政職や教育アドバイザーを活用し、各小中学校の取組を伴走できる体制を確保	整備した伴走体制を活用し、「働き方改革」や「授業研究」、「教科担任制」、「地域・保護者との対話」など、各学校における挑戦を学校毎の特色を踏まえて伴走する
		伴走支援を通じて様々な挑戦が生まれ、成果に繋がっている状態	「教科担任制」や「授業研究」などの挑戦への伴走支援を実施し、各学校の取組実現に貢献 - 加えて、「新入生保護者会」における保護者と学校の対話の場づくりも実施。コミュニケーション円滑化に一定の成果	各学校の挑戦に引き続き丁寧に伴走するとともに、前年度一定の成果を得た「新入生保護者会の対話の場」については他学校とも成果を共有し、展開を検討する

施策 い：学習者中心の学級経営・授業の実現

- 施策概要
- こどもが学びのハンドルを自らに握ることができる教育環境を実現する
 - そのためにも、「学習者中心の学び」による単元・授業設計に関する考え方を整理するとともに、指導主事等による学校訪問の機会を通じて、学校現場とともに探究的に「学習者中心の学び」を模索し続ける

	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	- こどもたち一人ひとりが包摂されながら自ら学びのハンドルをにぎり、学びを自己決定できている状態 - 教育委員会/学校/教職員が「学習者中心の学び」について研究し続けている状態	定例的な”学校訪問”などの機会を通じて、教育委員会と学校が「学習者中心の学び」について対話し、認識を深められている状態	- 指導主事による学校訪問等の機会を充実させ、学習者中心の学びを実現するための、「単元づくり」や「ICTと紙の両立」「個別最適な環境設計」等について対話した - 学習者中心の授業づくりを進めるため、単なる指導ではなく、理解を深める対話の機会を更に充実していきたい	引き続き委員会と学校との対話の機会を充実させ、継続してビジョンの共有・学習者中心の授業づくりについて取り組んでいく
		90%以上の教員が、学校指定研究が学習者中心の教育活動の推進に繋がったと感じている状態	- 学校指定研究において各学校における学習者中心の学びの研究を進めるとともに、研究発表の場では、参加した他学校の教職員とも対話 - なお、指標についてはR8年度からアンケートで確認する予定	「学習者中心の学び」の実現に必要な視点と具体的な方法について研究し続けていく必要がある。学校の指定研究には指導主事が必ず伴走し、指定研究を通して学習者中心の学びを実現できるよう助言を行っていく

施策 **う**： “学習者中心の学び” を進める研究研修充実



- 施策概要
- 「こどもの学び」と「教師の学び」は相似形であるとの考えから、鎌倉市教育センターとして実施する研修について、「学習者中心」の考えのもと充実を図る

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
	教職員も「学習者」として自ら学びのハンドルを握り、受け身でなく主体的に学ぶことができおり、教育委員会がその学びに寄り添った学習環境を提供できている状態	教育センター主催の研修会が、教職員の”学習者中心の学び”を意識したものでできている状態	学校支援研修会や企画研修会を実施し、各学校の課題や教育的ニーズに応じた学びの機会を提供した。また、教員の興味や課題感に応じて構成するなど、「学習者中心の学び」を意識した研修内容にすることで、教員の主体的な学びを促進した	学校との対話と教育的ニーズ把握を一層充実させ、学校の実情に即した主体的な研修会を展開する。また、得た学びを日常の授業改善や学校改善に試したくなるような研修会を提供していく
		「先生の学び応援ファンド」の活用を通じて、50%以上の教員がなんらかの学びに挑戦できている状態	「先生の学び応援ファンド活用基金条例」を整備。本ファンドを活かした「先生の学び応援」に向けた取組について検討を具体化	「サキドリ研究校や授業時数特例校への組織の学びへの支援」や「先進地視察」などの具体的な取組を推進 - 個別の学びへの支援に留まらず、先生の学びにフォーカスしたイベント開催など、「先生が学ぶこと」を価値づけ、機運を醸成していく

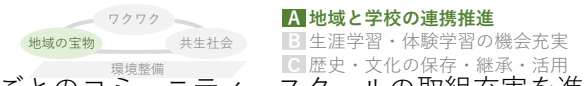


1. 本資料の目的・構成
2. ワクワクして未来を創る学びを生み出す
- 3. 地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる**
4. 多様性を尊重した学びで共生社会を共創する
5. 学習者中心の学びを支える環境を整備する

施策 あ：コミュニティ・スクールの推進

施策概要

- 地域と学校が協働し、社会総がかりで課題解決に向かって取り組む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、中学校区ごとのコミュニティ・スクールの取組充実を進める
- 各学区のコミュニティ・スクールが熟議を深めて、地域の中で育つこどもの成長を支える仕組みづくりを図る



指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

- | | | | |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">コミュニティ・スクールの機能を通じて、学校・地域・保護者が対等な立場で、学校の運営方針や地域学校協働活動の在り方について対話できている状態 | <ul style="list-style-type: none">学校運営協議会を全ての中学校区に設置している状態 | <ul style="list-style-type: none">年4回の検討委員会において、各ブロックの取組を共有して、各ブロックの実践に反映させることができた | <ul style="list-style-type: none">R10年度までの、法に基づいたコミュニティ・スクール制度（鎌倉コミュニティ・スクール）への全校移行を目指し、R8年度は、具体的設置に向けた準備を進め、一部の学校ではR9年度から取組を開始できるようにする |
| | <ul style="list-style-type: none">全てのコミュニティ・スクールにおいて適切に対話が実施され、地域における学校・学びの在り方を対話できている状態 | <ul style="list-style-type: none">年4回の検討委員会において、各ブロックの取組を共有して、地域における学校・学びの在り方を対話できるような仕組みを目指して、各ブロックの実践・課題を共有することができた各校での進捗の差があるため、他校の情報を共有しながらより良くしていく必要がある | <ul style="list-style-type: none">引き続き、各校の学校運営協議会の在り方について検討できるように、他ブロックの実践を共有できるようにする |

施策 い：地域学校協働活動の推進

施策概要

- 地域と学校の協働を深めるため、市内小中学校の地域学校協働活動推進員を配置し、各地区で技術や知識を持つ人材と学校をコーディネートし教育活動を支援する体制を構築する
- 当該活動を更に進めるため、コミュニティ・スクールの取組と連携を進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">市内各校において、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための活動ができている状態 | <ul style="list-style-type: none">全中学校区で地域住民が参画する教育活動が行われている状態 | <ul style="list-style-type: none">全中学校区で学校協働活動推進員が中心となり、地域住民が参画する教育活動が行うことができた。例えば、R7年度は学校を中心とした防災の活動が盛んに実施され、地域と学校で協働して、避難訓練や防災マップ作製に取り組むなどの事例が生まれた | <ul style="list-style-type: none">地域学校協働活動推進員が学校長とより連携を密にして学校と地域が一体となった地域住民が参画する教育活動をすすめていく |
| | <ul style="list-style-type: none">協働活動が、コミュニティ・スクールでの対話を踏まえながら、地域の子どもたちの学びや成長に寄与するものとなっている状態 | <ul style="list-style-type: none">様々な地域学校協働活動の実践が広がりつつある一方で、地域一学校間における対等な対話に基づく実践までは道半ば | <ul style="list-style-type: none">地域の子どもたちの学びや成長につながることを前提にして、コミュニティ・スクールでの対話において、地域学校協働活動が行われるようにしていく |

施策 う：地域内の各機関・団体との連携・協働

施策概要

- 「どこで学んでいるか」を問わず、市内のこどもたち全員が学習者中心の学びを実現できるよう、COCORUかまくら・わかたま等の青少年教育や、放課後かまくらっ子、高等学校、大学、フリースクール、地域で活動する企業・NPO等との連携・協働を進める



- A 地域と学校の連携推進
- B 生涯学習・体験学習の機会充実
- C 歴史・文化の保存・継承・活用

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
・鎌倉に住んでいる/鎌倉で学んでいるこどもたちが、あらゆる環境においても学習者中心の学びを実現できている状態	・ 鎌倉市内の様々な取組・団体とコミュニケーションを取り、“学習者中心の学び”実現に向けた連携に取り組んでいる状態	・ 市長部局にあった「こどもみらい部」と、より円滑な連携を企画し、条例を改正。教育委員会内に教育文化財部・学びみらい部・こどもみらい部の設置とし、連携を推進	・ 4月からの組織再編を経て各部局間の連携が図れるよう、まずは管理職レイヤーでの丁寧なコミュニケーションを重ねるとともに、成果の具体化に向けて取組を推進
	・ 毎年、何らかの新たな連携に挑戦することができている状態	・ 鎌倉インターナショナルFCと連携したスタジアム活用や、株式会社eMoBiと連携した「トックトック先生」など多様な企画を推進	・ 引き続き、市内外の多様な協力者との連携を模索し、取組の具体化を推進

施策 あ：生涯にわたって学ぶ機会の開発・展開

施策概要

- 若年層から高齢者まで、幅広い市民がワクワクしながら学ぶことができる生涯学習機会の更なる開発・展開を進め、積極的な周知を行う
- 鎌倉で培った地域の人材を活かし、市内の学生や退職した教職員等の幅広い年齢層がボランティアや講師として活躍する学びの場を充実させる
- 「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」を踏まえて、博物館を活かした鎌倉らしい学びの場を提供する



- A 地域と学校の連携推進
- B 生涯学習・体験学習の機会充実
- C 歴史・文化の保存・継承・活用

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
・幅広い世代に生涯学習機会が展開され、市民に行きわたり、市民一人ひとりが学習者として生涯にわたり学ぶことができている状態	・ 社会教育プログラムの実施回数：4回/年	・ 実施回数：6回/年。例年の事業に加え、コロナで中止していた「かまくらこどもコンサート」を5年ぶりに実施	・ 社会教育プログラム、吉屋信子記念館ともに周知が不足している点が課題であるため、SNSやnoteを活用した積極的な情報発信に努める
	・ 吉屋信子記念館の来館者数：2,000人/年	・ 来館者数：2,332人/年。前年度比103人増となり、多くの方に施設を利用してもらうことができた	
	・ 社会教育プログラム参加者の満足度：80%/年	・ 講座、イベントの開催回数：124回で積極的に市民が興味関心を持てる講座、イベントを開催することができた	・ 引き続きワークショップや子供から大人まで学びにつながるような市民が興味を持てる講座やイベントを開催し、満足度の向上に努める
	・ 生涯学習センター利用者の満足度（講座・イベント）：80%/年	・ 満足度：89.5%であったため、市民が満足できる講座、イベントを開催することができた	

施策 い：放課後のスポーツ・文化体験機会の確保

- 施策概要
- 学校部活動の今後の在り方を模索するとともに、持続可能な枠組みを設計する
 - 地域におけるスポーツ・文化体験機会を充実させることで、学校部活動を一部縮小したとしてもこどもの体験機会が損なわれない状態を目指す

	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	子どもたち一人ひとりに、十分なスポーツ・文化体験機会が確保されている状態	- 全中学校に部活動サポーターが配置され、部活動を持続可能な形で実施している状態 - 各部活動における方針が明確になり、持続可能な運営に向けて議論を進めることができる状態 - 地域における放課後の文化・スポーツ体験機会が確保されている状態	- 全中学校に部活動サポーターを配置し、生徒の部活動の活動時間を維持することができた - 部活動サポーターの活用について学校ごとに偏り - 各部活動専門部に調査を行い、一部の部活動において、休日の地域展開にむけて議論を進めた - 教員の兼職兼業や地域の受け皿を探すなどに課題 - 放課後エンパワメントプロジェクトにおいて地域事業者の掘り起こしを行い、地域の文化・スポーツ体験を実施する主体との繋がりを持つことができた	- 各学校の活用事例を横展開しながら、部活動サポーターを増員し、必要な部活動全てに配置することができるように拡充していく - 一部部活動を休日において地域展開するとともに、合同チームでの練習を試験的に行う - 市長部局との合同会議において議論を進める - 部活動に関する議論と連動させながら、地域における文化・スポーツ体験との連携を深め、放課後の子どもたちの体験機会確保へと繋げていく

施策 う：食育推進に向けた学校給食の着実な実施

- 施策概要
- 学校給食において、地場産物の他、有機オーガニック食材やフェアトレード食材等の利用を促進することを通じて、持続可能で環境と調和のとれた食の在り方について、給食を通じた学びを深める

	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	学校給食を通じて食育が推進され、子どもたちにおいて持続可能で環境と調和のとれた食の在り方について理解や関心が深まっている状態	- 地場産食材の利用割合の向上：地場産物利用促進運動期間における神奈川県産品使用割合30%/年 - オーガニック給食実施回数：有機農産物や特別栽培農産物を使用した給食を各校年2回以上実施 - フェアトレード食材の給食使用：各校年1回以上使用	- 給食において地場産物を積極的に取り入れた。子ども達は農家の方からのビデオメッセージを視聴するなど学びを深めた。（地場産物利用促進運動期間における神奈川県産品使用割合21.9%/年） - 有機農産物や特別栽培農産物を使用した給食を小学校で年1～3回、16校で計30回実施した。中学校では年2回実施した。一部の学校では給食に合わせ、農家の方や自治体職員により有機農業に関する授業を実施した - フェアトレード食材（ごま、シナモン）を使用した給食を全校で実施した	- 農家の方々漁業関係者、事業者やJAと密にコミュニケーションを図りながら給食において地場産物を積極的に取り入れる - 有機農産物や特別栽培農産物を使用した給食を各校で実施する。給食実施に合わせて、子ども達が有機農産物や農業について学べる機会を設けるとともに生産地や生産者への関心や理解を深められるよう仕掛けていく - フェアトレード食材を使用した給食を全校で実施するとともに、生産地や生産者について学べる機会を設けていく

施策 あ：文化財の保存・継承・活用



施策概要

- 千年先の鎌倉へ、有形・無形文化財、史跡等を後世に守り伝えられるよう、文化財の保存・継承・活用を推進する
- 具体的には、文化財の調査・研究・指定を進め、有形文化財の修理や公開活用、無形・民俗文化財（郷土芸能）団体の育成、史跡の公有地化と整備、公開活用に取り組む

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
文化財が適切に保存・継承・活用され、1000年先の鎌倉まで受け継ぐことができる状態	鎌倉市市指定文化財の指定件数：2件/年	候補物件も含めた調査研究を行い、絵画絹本著色授戒三聖図（伝廬舎那仏像）、歴史資料鎌府勝景の2件を新たに指定した	文化財の調査研究を行い、候補物件の価値を明らかにするとともに、指定の優先順位を整理して文化財指定を進めることにより、後世への確実な継承を行う
	指定文化財の修理等件数：10件/年	指定文化財19件の保存修理や整備等を実施した。貴重な文化財を確実に次世代に引き継ぐため、適切な保存と効果的な活用を図ることができた	国・県及び所有者と連携しながら、修理等を進め、指定文化財などを適切に保護し、後世に伝える
	公開している指定史跡の件数：32件	新たに大町釈迦堂口遺跡の暫定公開を実施し、公開している指定史跡の件数は33件となった	引き続き指定史跡の整備や適切な維持管理を実施し、公開箇所数の増及び安定的な公開活用を進める

施策 い：文化財の調査・研究体制の整備

施策概要

- 文化財の保存・継承・活用を進めるためにも、鎌倉市としての文化財の調査・研究体制を着実に整備する
- 具体的には、職員の確保と専門性の向上、専門家や研究機関との連携を深め、確かな人員体制の整備を進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
文化財の保存・継承・活用に向けて、専門家や研究機関、行政官等の体制が十分に整備されている状態	専門的知識・能力を持つ職員の体制が充実している状態	職員採用試験を実施し、学芸員（歴史・博物館学）を一名採用した	考古学、埋蔵文化財の専門職員の採用を行う
	地域と連携して文化財の保存・継承・活用の取組が推進されている状態	地域住民等との意見交換を経て、史跡大町釈迦堂口遺跡を暫定公開し、約8,900人の来場があった。NPOや民間調査組織と連携して遺跡の報告会や説明会を実施し、延べ1,112人の来場があった。鎌倉市郷土芸能保存協会と共催した郷土芸能大会には、226人の来場があった	地域との連携、対話を行いながら、文化財の公開活用を進めていく

施策 **う**：伝統・文化的な学習機会の充実



施策概要

- 鎌倉の教育資源である自然・歴史・文化を活用した体験学習の機会の充実を図るため、文化施設を活用した学習や、伝統文化の鑑賞・体験教室の充実を図る

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度 of 取組/振り返り	R8年度方向性
こどもたちが自然・歴史・文化に触れる機会が十分に確保され、鎌倉の伝統文化の継承者となることのできる状態	全ての学校で伝統・文化的な学習機会をつくることのできている状態	市内のすべての小学校で能・狂言の体験教室を実施するとともに、各学校において、地域の伝統的な文化活動との連携を推進	能・狂言の体験教室について継続して実施していく他、地域のお囃子やお祭りなどの伝統的な文化活動と学校での更なる連携を進める

1. 本資料の目的・構成
2. ワクワクして未来を創る学びを生み出す
3. 地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる
-  4. **多様性を尊重した学びで共生社会を共創する**
5. 学習者中心の学びを支える環境を整備する

施策 あ：由比ガ浜中学校の運営及び知見の展開

施策概要

- 由比ガ浜中学校の学校運営が安定して行われるように伴走支援を行うとともに、由比ガ浜中学校への転入学が本人にとってふさわしい選択肢であるかを一緒に丁寧に考える機会として転入学プロセスの中で面談や学校体験を実施し、本人・保護者の意思決定を支援していく
- 不登校支援についての情報発信や研修の場として活用し、由比ガ浜中学校で蓄積される不登校支援のノウハウを効果的に波及させていく



施策の成功イメージ

指標

R7年度の取組/振り返り

R8年度方向性

指標
/振り返り
/方向性

- | | | | |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">由比ガ浜中学校が不登校のこどもたちの一つの選択肢として適切に運営されるとともに、その知見が展開されることで、鎌倉市内小中学校における「誰一人取り残されない教育」に寄与している状態 | <ul style="list-style-type: none">由比ガ浜中学校に在籍する生徒が、自分らしく学び、自分らしく成長できている状態視察や研修会を通して、由比ガ浜中学校の取組を市内教職員に共有できている状態 | <ul style="list-style-type: none">令和7年4月に無事開校し、31名の生徒が転入学。ゼロから作り上げた学校であり、現場としても多くの迷いや悩みを抱えながらの運営であったが、結果としては登校率は80%を超え、新教科ULTLAでも多様な学びに挑戦する生徒の姿が見られ、14名の生徒が無事卒業由比ガ浜中学校での学びや成果を発信するため、夏休みに市内教員やまなびばサポーター等が参加できる研修会を由比ガ浜中学校において開催。60名が参加ただし、教員が由比ガ浜中を視察できる機会が少なく、成果を共有できる場が少ないことが課題に | <ul style="list-style-type: none">引き続きこどもたち一人ひとりの学びや成長を大切に、自分らしく学校生活を送れるような学校経営を進めるとともに、転入学プロセスにおいてもこどもたち一人ひとりにふさわしい学びの場を見つけられるよう丁寧に支援していく夏休みのセミナー開催は引き続き継続するとともに、由比ガ浜中での研修会・イベント開催の他、他自治体からの行政視察の機会に市内教員も参加できるようにするなど、更なる成果の展開を図る |
|---|--|--|---|

施策 い：校内フリースペースの全校整備

施策概要

- 自分のクラスに入りづらいこどもたちが、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる「とまりぎ」のような居場所として、校内フリースペースを全ての小・中学校に整備する
- フリースペースにおいてこどもを支援する「まなびばサポーター」を配置する

施策の成功イメージ

指標

R7年度の取組/振り返り

R8年度方向性

指標
/振り返り
/方向性

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">全校でフリースペースが整備され、「まなびばサポーター」が配置されるとともに、各フリースペースが適切に運営されることで、教室に入りづらいこどもたちにとっての居場所が確保されている状態 | <ul style="list-style-type: none">全ての学校において校内フリースペースが整備され、全校にまなびばサポーターが配置されている状態フリースペースがこどもたちの「とまりぎ」のような安心・安全な部屋として運用できるよう、不断の運営改善が図られている状態 | <ul style="list-style-type: none">令和7年度整備校における整備を丁寧に進め、スケジュール通りに9月から開設最終年度の整備校の保護者等から早期の整備を求める声があり、次年度に向けてまなびばサポーターの採用を早めるなどの取組を推進管理職や児童支援専任、教育相談コーディネーター等を対象とした会議・研修においてフリースペースに関する対話や学びの時間を確保一方で、教職員とまなサポの連携など、各校におけるフリースペース運営の在り方は引き続き課題 | <ul style="list-style-type: none">フリースペース設置に向けた取組を9月を待たずに進められるよう、「まなびばサポーター」を年度当初に配備するなどの取組を推進する校長会等に対話した内容をもとにフリースペースの運営に関するガイドラインを改訂するとともに、担当課による各校のフリースペース訪問や伴走支援を強化する |
|--|--|--|--|

施策 **う**：通級指導教室の整備・充実

- 施策概要
- 通常級に在籍するこどもたちが、通級指導教室においてそれぞれの教育的ニーズに応じた個別の支援・指導が受けられるよう、教室の整備を進めるとともに、指導の充実を図る

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
	通級指導教室が整備され、指導の充実が図られることにより、こどもたちが自分に合った学びの場を選択し、学びの多様化が進められている状態	通級指導教室の待機児童数が0人	大船中学校に巡回型通級指導教室を開設した。巡回型の利点を生かして、在籍校との連携を図りながら指導に当たり、中学校通級への理解を深めた	植木小学校に言語通級指導教室「ことばの教室」を新たに開設し、通級指導へのニーズに応じられるようにする
		在籍校との連携により教育的ニーズを的確に把握し、通級指導教室による指導の充実が図られている状態	小学校では、各小学校との連携から指導を必要とする児童の把握をし、適切な指導が受けられるように努めた	R9年度から手広中学校に巡回型通級指導教室を設置するための準備を進めるとともに、小学校での受け皿拡充のための検討を更に進める
			通級指導教室を拡充する一方で、経験のある教員の不足が課題に	担当者会や連絡会を通じて、児童支援専任教諭や教育相談コーディネーターの通級指導教室での支援・指導への理解を深めるとともに、通級指導を担当する教員への伴走支援や研修の充実を進める

施策 **え**：かまくらULTLAプログラム*の推進

- 施策概要
- 不登校あるいは休みがちになっているなど学校に通うのがつらいと感じている児童生徒を対象に「かまくらULTLAプログラム」を実施する

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
	学校に通うのがつらいと感じているこどもにとっても、一人ひとりが個性や特性に応じて自分らしく学んでいく方法を見つける機会が確保されている状態	プログラムが、参加した子どもたちにとって自分らしい学び方（得意なやり方、ワクワクする内容、安心できる環境など）について考えるきっかけとなっている状態	- R7年度は「気」と「木」をテーマに、延べ63人のこどもたちが参加。自らの特性などについて学んだ他、鎌倉の自然や歴史遺産の中でテーマに基づく体験的な学びを深めた - アンケートでは、自分らしい学びができたと感じた生徒が5段階中平均3.3と評価し、自分らしさについて考えるきっかけづくりに一定の効果があったと考えられるが、よりそう感じられるようプログラム設計を検討していく必要がある	R8年度は「未知」と「道」をテーマに、自身の五感を使って地元の道やその中にある自然と触れ合うような体験的かつ自己探求的な学びが、子どもの楽しさ・主体性・自己変容のきっかけづくりにつながるよう実施する予定

*: 海、お寺、海などの鎌倉の地域特性を活かし、参加者一人ひとりが個性や特性に応じて自分らしく学んでいく方法を見つけていくことを目的とした探究プログラム

施策 **お**：教育支援教室“ひだまり”の充実

施策概要

- 不登校傾向にあるこどもが、教育支援教室「ひだまり」において、それぞれのニーズに応じた適切な支援が受けられるよう、体制を充実するとともに、教室の環境整備・魅力化を進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
「ひだまり」が、不登校傾向にあるこどもにとって、安心して過ごすことができ、学びと社会との繋がりを取り戻すことのできる場となっている状態	ひだまりが、学校に行くことが難しいこどもたちにとって安心して居場所となるような環境整備ができている状態	- 安心して居場所となるよう、児童生徒の声を基に落着けるスペースの確保などを進めた - 一方で、椅子や机、ソファ等が古くなってきており、児童生徒にとって快適な環境づくりを行うため家具等の入れ替えを実施する必要がある	校内フリースペースや由比ガ浜中学校の知見を活かし、ひだまりの什器・家具等を整備予定。こどもたちにとって安心して居場所となるよう環境整備を推進する
	ひだまりにおいて、こどもたちが少しでも学びに向かうことができるような取組に挑戦できている状態	ひだまりにおいてこどもたちが様々な学びのきっかけに出会えるよう、調理実習や工作をはじめとする体験活動や、校外学習などの取組を行った	今後もひだまりにおけるこどもたちの学びが充実できるよう、スクールコラボファンドやULTLAプログラムをはじめとした市の関連施策や地域の民間団体とも連携しながら取組の充実を図る



施策 **あ**：インクルーシブ教育の取組充実

施策概要

- 市が掲げる“共生社会”を目指し、鎌倉市としてインクルーシブ教育を推進する
- 具体的には、インクルーシブ教育モデル校を核とした取組の深化・展開や、各学校・地域への情報発信の強化等を実施する

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
「誰もが包摂されている学校」を目指して、鎌倉市において取組事例が着実に生まれ、横展開されている状態	全ての小中学校がインクルーシブな教育環境の整備に学校全体で取り組んでいる状態	- インクルーシブ教育推進モデル校を市内小中学校の中から3校を指定し、実践に取り組んだ - 学校訪問等の機会を活用し、各校に対しインクルーシブ教育の理念啓発を実施した - 教職員だけでなく、市民、保護者等を対象にインクルーシブ教育推進シンポジウムを開催し、インクルーシブ教育の理念啓発を行った	- 各取組については粘り強く継続的に取り組んでいく。イベントについては更に多くの関係者を巻き込めるように企画を進め、共通理解を図る - これまでの成果を更に横展開するため、モデル指定校の増加を検討する



施策 い：インクルーシブ教育実現のための体制整備

施策概要

- ・ 障害があるこどもや、帰国・外国人児童生徒など、多様なこどもたちを包摂する学習環境を整備し、インクルーシブな教育環境を実現する
- ・ 具体的には、小・中学校における特別支援学級・通級指導教室の整備の他、校内フリースペース整備、各学校と由比ガ浜中学校や教育支援教室ひだまりとの連携、看護師や手話通訳者、日本語指導者の確保、デジタル機器の活用等、あらゆる施策を総合的に展開しながら整備を進める



指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

- | | | | |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 発達に課題を抱えるこどもや、帰国・外国人児童生徒なども含めた多様なこどもたちが、重層的かつ連続的なインクルーシブ教育環境の中で学びに向かうことができている状態 | <ul style="list-style-type: none">・ 学級補助員の全校配置や、通級指導教室・校内フリースペースの整備など、こどもたちを包摂するための環境が整備できている状態・ 児童支援専任教諭の後補充非常勤講師を全小学校に配置し、児童支援専任教諭が児童支援に専念できている状態 | <ul style="list-style-type: none">・ 引き続き学級補助員の全校配置を行う他、学級フリースペースの設置や通級指導教室の拡充などを進めるとともに、重層的かつ連続的なインクルーシブ教育環境の整備に向けて検討を進めた・ 不登校や暴力行為、いじめ問題など、子どもたちを取り巻く環境の変化に早く気づき、寄り添い支援できる環境を整えた・ 学校状況によっては児童支援専任が学級担任に入らざるを得なくなるなどの場合があり、児童支援に専念し切れない状況が課題に | <ul style="list-style-type: none">・ 校内フリースペースの全校設置や、通級指導教室の更なる拡充を進めるとともに、学級補助員への研修の充実、「引きこもり」となったこどもへの支援、不登校のこどもたち向けのオンライン支援の実施などに向けた議論を進める・ 多様な教育的ニーズに対応していけるような専門性をより高める研修を実施していく・ 児童支援専任が支援に専念できるよう、後補充非常勤の更なる拡充を進める |
|---|--|---|---|

施策 う：人権と多様性を認め合う教育の推進

施策概要

- ・ いのち/人権を大切にすることを育むため、人権教育の充実と教職員の研修・教育推進研究を推進する
- ・ 各学校に児童支援専任教諭等を配置し、校内支援体制の充実を図るとともに、SNSを活用した相談窓口の整備と情報発信を行う。また、いじめの防止・早期発見・初期対応に向けて、法令に基づき関係機関と連携した組織的対応を推進する。

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ こどもたち一人ひとりが包摂され、誰しものが「いのち・人権」は大切にされるべきものであること、また、いじめはあってはならないものであることを、本質的に理解している状態 | <ul style="list-style-type: none">・ 全ての小中学校が「いのち・人権」を大切にすための教育に取り組んでいる状態・ いじめを隠すことなく適切に認知し、全てについて解消に向けて取り組むことができている状態 | <ul style="list-style-type: none">・ 「いのち・人権」についての教育を学校教育のカリキュラムに組み込み、授業を通じてすべての子が大切にされ、相手を大切にすることを育めるよう取組を実施・ 「いのち・人権」についてSNSを活用した相談窓口を、全家庭に周知・ 鎌倉市いじめ防止対策推進条例の制定、いじめ防止対策基本方針の改訂を進めるとともに、いじめ対応リーフレットを作成し、全学校・教員に周知・ これを踏まえて各校でも基本方針を改訂し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に向けて取組を推進 | <ul style="list-style-type: none">・ 各学校でのカリキュラムにおいて引き続き充実した人権教育に取り組むとともに、こどもみらい部との連携を進め、自他の人権を大切にするための講座を、必ず全中学校で実施していけるように調整を進める・ R7年度末に公表したいじめ重大事態の調査報告も踏まえながら、低年齢化しているいじめへの丁寧な対応や、幼小こ保小連携なども適切に進める |
|--|--|--|--|

施策 あ：放課後における学びへの支援充実



- 施策概要
- 家庭の教育費の中でも最も支出割合が大きく、格差が生まれやすいとされる「放課後の学び・体験機会」について、こどもたちが希望する学習やスポーツ・文化体験ができるよう支援*を実施する

指標	施策の成功イメージ	指標	R7年度の実績/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	いわゆる「体験格差」が是正され、全てのこどもたちが放課後の文化・スポーツ体験機会に触れることができる状態	放課後エンパワメントプロジェクトの対象児童生徒の申請率：40%以上	- 三者協定に基づき、生活保護及び就学援助費受給世帯の小学校4年生～6年生に8万円/年、中学校1年生～3年生に10万円の就学クーポンを配布した（対象児童数878名に対し、399名(45.4%）の児童に就学クーポンを配布） - 令和8年度から市独自の事業とするための事業者選定（プロポーザル方式）を行った	市の委託事業として、生活保護及び就学援助費受給世帯の小学校4年生～6年生に8万円/年、中学校1年生～3年生に10万円の就学クーポンを配布する。事業の持続可能性を高めるため、コスト構造の最適化を模索する

施策 い：就学援助制度の着実な実施

- 施策概要
- 教育の機会均等に向けて、経済的な理由で就学に課題を抱える家庭に、学用品費、給食費、修学旅行費など学校でかかる費用の一部を援助する「就学援助制度」を着実に実施する

指標	施策の成功イメージ	指標	R7年度の実績/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	就学援助制度が着実に運用され、経済的な理由で就学が困難となる事態がなく、なっている状態	準要保護児童生徒援助制度の認定者における当初認定者の割合：95%超	学校説明会における制度案内のほか、学級を通じて各家庭に案内を配付し周知を行うとともに、利便性を高めるため、電子申請で受付を行った（準要保護児童生徒援助制度の認定者における当初認定者の割合：95.2%）	- 制度案内のリーフレットや電子申請のフォームを、より分かりやすいよう見直す - 事務の見直しによりめがね券交付の迅速化や電子申請化による保護者の利便性向上を図る
		高等学校への進学率：神奈川県学校基本統計99%超	中学校を通じた制度案内のほか、市立中学卒業生の進学先高校へ制度案内を依頼し広く周知を行った。利便性を高めるため、電子申請で受付を行った（令和7年度高等学校等への進学率神奈川県学校基本統計：99.1%）	制度案内のリーフレットや電子申請のフォームを、より分かりやすいよう見直す

*：令和6～7年度(2024～2025年度)は三井住友フィナンシャルグループからの寄附のもと、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンと連携して就学援助世帯等に電子クーポンを配布する事業を実施

- 児童支援専任教諭、教育相談コーディネーター、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等による相談体制の充実を図るとともに、データ連携システムの活用等を通じて、こどもみらい部との連携による切れ目ない相談支援を進める

- 鎌倉市の全ての家庭・保護者が多様な専門家から切れ目なく支援を受けることができていく状態

- 児童生徒支援課相談室における保護者・こどもへの相談体制が充実されている状態

- R6年度から教育相談員の学校への派遣日数等を拡充した結果、相談対応件数が増加した。相談の概要としては、小学校の割合が多い
- 対面相談の体制が拡充できている一方、対面相談ができない方へのリーチについて充実を図る必要がある

- ・児童生徒一人ひとりの多様な課題に対応し、より質の高い支援体制を構築するため、オンラインスクールカウンセラー（県費、令和９年度まで）を増員し、教育相談体制のさらなる充実を図る

- こどもみらい部とも連携し
悩みを抱える保護者やこども
たちの相談体制を構築で
きている状態

- R6年度に市費スクールソーシャルワーカーを増員し、各家庭の福祉的な課題に対し、こどもみらい部をはじめとした庁内の関係課や、関係機関と連携しながら対応できる範囲が広がってきた

- 複合的な課題を抱える児童生徒・保護者・家庭を支援する為、関係機関・専門職等との緊密な連携のもと、さらに多角的な支援体制を構築する
- 機構改革によりこどもみらい部が教育委員会として再編されたことから、より円滑できめ細かな支援を実施していく

施策 い：幼・保・こ・小の有機的な連携

- ・就学前のこどもたちが健やかに成長し、就学後の学校での学びや生活に円滑に接続できるよう、幼・こ・保・小の有機的な連携を推進する
- ・具体的には、合同による職員研修や、こどもに関する情報の共有、架け橋プログラムやスタートカリキュラムなどを着実に推進する

- 幼・こ・保・小の学びが連続性をもってつながり、就学前の体験や学びが就学後の学校生活へ円滑に接続されることで、こどもが一人ひとりの特性に応じて学びや生活の基礎を確実に形成している状態

- 全小中学校で就学前後の学びの連続性を意識した取り組みが行われている状態

- ・「幼・こ・保・小連携研修会」を企画・実施。園や小学校の参観及び協議を通して、子どもの姿をもとにした意見交換を行うことができ、幼・こ・保・小それぞれの教育・保育への理解が進んだ（第1回園27名、小16名 第2回園13名、小19名）

- 幼・こ・保・小の連携に向けて、それぞれの交流機会や連携の場が構築されている状態

- 「幼・こ・保・小交流事業」では、年度初めに担当者会を企画・実施し、園、小学校の担当が情報交換や今年度の交流について話せる場を設定した(園33名、小16名)
- 「幼児教育研究協議会」では、実践発表、分科会で意見交換を行い、連携への理解を深めた(園70名、小36名)

- ・ R7,8で「幼児教育研究会」にて架け橋カリキュラムのモデルを作成中であり、R9の発表に向け事業を充実させる
 - ・ 「幼児教育研修会」でスタートカリキュラムを推進している学校の参観や、講師を招聘しての「スタートカリキュラム研修会（仮）」の企画・実施
- *****
- ・ 連携研修会・担当者会・研究協議会を継続し、園と小学校の先生同士のつながる場、互いの教育・保育の理解が深まる場を引き続き充実させる

1. 本資料の目的・構成
2. ワクワクして未来を創る学びを生み出す
3. 地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる
4. 多様性を尊重した学びで共生社会を共創する
-  5. **学習者中心の学びを支える環境を整備する**

施策 あ：学校における働き方改革の推進



- 施策概要
- 各学校における働き方改革を推進することで、教職員が「学習者中心の学び」の実現に向けて、全力で取り組むための環境を整備する

指標	施策の成功イメージ	指標	R7年度の実績/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	学校における働き方改革が進み、教職員一人ひとりがこどもや授業研究と向き合う時間が確保できている状態	時間外在校等時間 45時間超の教員の割合 0 % 年360時間超の教員の割合 0 %	- 令和7年度の時間外在校等時間は、45時間超の教員の割合（小11.3%、中40.8%）、年360時間超の教員の割合（小28.2%、中64.5%）となった - 指標0%には遠いものの、部活動サポーターなどの新たな取組もあり、5年連続で改善できている	安全衛生協議会や意識調査を通じて、現場の実情を踏まえ、単に業務を減らすだけではなく、教育活動の質を維持しながら、教職員の負担を適切に軽減する取組を他課と連携して着実に進める
		「現在の職場を働きやすい職場」と感じている教員の割合80%以上 「仕事にやりがいがある」と感じている教員の割合 80%以上	令和7年度に実施した教員の働き方改革に係る意識調査の結果、「現在の職場が働きやすい職場」と感じている割合78.3%、「仕事にやりがいがある」と感じている割合90.8%となった	- 令和8年度のカスタマーハラスメント対策の義務化を受け、市コンプライアンス課と調整し、学校現場における指針等の整備を進める - 令和9年度の電話機器更新に合わせた通話録音装置の追加を見据え、実運用の整備を行う

施策 い：市費負担教員の任用

- 施策概要
- 「学習者中心の学び」の実現に向けて、学校における指導・運営体制を充実させるため、市費により鎌倉市独自で教員を採用する

指標	施策の成功イメージ	指標	R7年度の実績/振り返り	R8年度方向性
指標 /振り返り /方向性	市費負担教員が採用され、学校現場に配置されることにより、「学習者中心の学び」の実現に向けた組織的な取組が進められている状態	計画期間中に30名程度の市費負担教員を採用	- 市費負担教員制度を創設し、民間事業者の転職サイトを活用し募集を行った 123名の応募があり、10名の合格者を出せたが、2名の辞退があり、令和8年4月からは、小学校6名、中学校2名の教諭を配置した	- 任期付職員であることを踏まえ、安定かつ継続した配置を確保するため、10名程度の採用を行う - 次期学習指導要領に向けて議論が進む「情報・技術科（仮称）」の創設を見据えた中学校技術科の授業を担うことができる人材の確保を目指す
		市費負担教員が配置された学校が、強化された組織力を生かした取組に挑戦できている状態	管理職ヒアリング等を通じて学校の実態を踏まえ、教育効果が最も高くなるような配置を決定	引き続き、合格者の人数や所有免許を鑑みて、既存の県費負担教職員の配置状況や学校の実態を踏まえ、教育効果が最も高くなるような配置を決定する

施策 う：教育機関を支え、助け、励ます教育委員会の体制充実

施策概要

- これまでの「管理型教育委員会」から「伴走型教育委員会」へ転換し、学校や博物館等の教育・文化関係機関の挑戦を支え、助け、励ますために、教育行政職の確保をはじめ、教育委員会の充実した体制を確保する



施策の成功イメージ

指標

R7年度の取組/振り返り

R8年度方向性

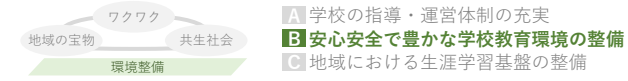
指標
/振り返り
/方向性

- 教育委員会において適切に体制を整備し、各教育・文化関係機関の挑戦に丁寧に伴走できている状態
- 教育行政職の採用などを通じて教育委員会の体制を充実することができている状態
- 市HPからの応募に加え、エン株式会社の求人サイトを活用することで幅広い周知と応募促進を図ることができた
- 1名の採用により教育行政職の人材確保に一定の成果を上げることが出来た
- 機構改革を実施し、教育委員会の組織の中にこどもみらい部を位置づけることにより、「こども」「学習者」を中心に据えて政策を考える体制を整備
- 原則、当初の採用計画のとおり、2年に1名の採用としていくが、事務職の採用状況によって市長部局とも協議していく
- 教育相談を担う組織として立ち上げた児童生徒支援課とこどもと家庭の相談室の相談員の執務室を隣接させることで、相談業務に関する日々の連携強化を図っていく
- 相談業務に続き、幼こ保小連携や放課後かまくらっ子など、こども施策と教育施策の隣接分野から順に施策の改善を進める

施策 あ：学校整備計画に基づく整備推進

施策概要

- 老朽化が進む小中学校について、計画的な改築や長寿命化改修等を実施するため、令和6年度に決定した施設整備の優先順位に基づき、着実な施設整備を進めて行く
- また、実施に当たっては、財政負担の軽減を図るための国庫補助の活用や新たな事業手法による効率化等にも取り組んで行く



施策の成功イメージ

指標

R7年度の取組/振り返り

R8年度方向性

指標
/振り返り
/方向性

- 小中学校の改修等が適切に進められ、こどもたちが安心して学校に通い、日々の学校生活を安全に過ごすことができている状態
- 第一小学校の改築に向けた取組：令和8年度基本計画策定、令和9年度～10年度設計業務、令和11年度～12年度改築工事
- 山崎小学校の改築に向けた取組を進めることができている状態
- 改築・長寿命化改修等に係るスケジュールの検討を進めることができている状態
- 現状の把握や課題の整理を行うとともに、市民ワークショップの開催や学校関係者へのヒアリングを実施
- ビジョンと5つのコンセプトに基づく基本構想の策定
- 移転候補地の取得に向け、従前の工場敷地の現地視察や不動産鑑定評価、土地所有者との面談等による継続的な用地交渉を実施。用地取得の可否を判断する段階までには至っていない
- 計画的な整備のためには交付金等の補助の活用が必要であり、交付要件の確認を進める中で各学校の耐力度を把握するための調査が必須であることが分かったため、令和8年度予算において2校程度の調査費用を計上
- 基本構想のビジョンとコンセプトが具体化できるよう、基本計画策定に向けた検討を行うとともに、全市的な課題である他の公共施設機能との複合化についても方向性を示していく
- 引き続き用地交渉を進める中で、双方が示す諸課題等について整理を行い、取得に向けてのおおまかなスケジュールについて一定の合意が得られるような協議を行う
- 調査対象校を選定し、調査の実施及び耐力度を把握する。
- 耐力度の内容によって、交付金活用の見通しや活用可能性のある補助メニューの整理などを行っていく

施策 い：学校トイレの老朽化・洋式化対策

施策概要

- 臭気や衛生面、現代の生活様式にそぐわないなどの課題解消に向け、トイレの洋式化を実施する。
- まずは、洋式化の状況や利用実態を把握したうえで、段階的に目標値を設定しながら、着実に進めていく。

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

指標
/振り返り
/方向性

- 子どもたちが何の不安もなく学校のトイレを使うことができている状態
- 和式トイレの洋式化に向けた取組：洋式化率95％

.....

 - 臭気の原因の一つである湿式の床を乾式に改修する取組を進めることができている状態
- 教室に近く、臭気などの影響を大きく受けることから、早急な環境改善が望まれていた第一小学校の一箇所のトイレについて、洋式化の修繕を実施
 - 令和8年度から洋式化（床の乾式化を含む）を進めるため、別途予算を確保した

.....

 - 第一小学校において、洋式化と併せて新しい工法による床を乾式化するための修繕を試験的に実施した
 - 従来の工法では、床のタイルを研り、長尺のシートを張ることで乾式化を実現していたが、新しい工法ではタイルを研ることなく、塗装を行うことで乾式化を実現
- 小学校で5～6校程度、中学校1校程度を対象に各校3箇所程度のトイレで洋式化を実施予定
 - 他の学校についても予算の執行状況等を見ながら、洋式化を実施し環境改善を進めていく

.....

 - 洋式化と併せて乾式化についても対象箇所を選定しながら実施していく
 - 令和7年度に試験的に実施した工法の効果を検証しながら、費用対効果や工期等も考慮しながら工法を決めていく

施策 う：体育館冷暖房設備の設置推進

施策概要

- 近年の暑さ対策に加え、災害時の避難所として利用される学校体育館について、冷暖房設備の早期設置を行う
- 具体的には、施設の状況や耐用年数等を考慮し、創設された交付金の活用やリース方式等の整備手法を決定していく

施策の成功イメージ

指標

R7年度取組/振り返り

R8年度方向性

指標
/振り返り
/方向性

- 体育館冷暖房設備が整備され、学校体育館が授業だけでなく災害時の避難所としても問題なく利用できる状態
- 屋内運動場への空調設備設置に向けた取組：令和9年度までに全校設置

.....

 - 先行して令和8年度中に第一小学校の体育館に簡易的な冷暖房設備をリースにより設置することができている状態
- 令和7年12月定例会で事業者募集のための支援業務に係る補正予算を確保し、令和9年度中の全校設置完了を実現するため前倒しで事業者募集に向けた取組みを開始
 - DB（設計施工一括発注）方式で全体スケジュールの短縮を図るための検討を進めた

.....

 - 令和8年度の設置に向け、現地の施設及び設備の状況を確認し、機種選定や設置方法、電源方式等の決定により必要な整備費用を積算
 - 令和8年度の一般競争入札実施に向けて準備
- プロポーザルの実施、仮契約を経て令和8年9月定例会で本契約に係る議決を得ることで、令和9年度中の全校設置完了を目指す
 - 本契約後、全校と整備スケジュール等の調整を行い、授業や部活動への影響などを考慮した作業工程を決定する

.....

 - 早期の一般競争入札の実現により、夏季休業期間中の設置完了、2学期からの使用が可能となるよう、手続きを進める

施策 **え**：学校図書館の充実

- 施策概要
- 各校への学校司書等の配置や、蔵書の追加・更新、新聞紙の配備などを通じて学校図書館を充実させ、こどもの読書教育の推進を図る

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
	こどもたちが使いたい！と思える学校図書館が各学校で整備されている状態	こどもたちのニーズや必要な学びに応じた蔵書が充実している状態	- 子どもたちからのニーズをアンケート等で聞き、蔵書の選書に活かした - 学校ごとに選書に関する知見に差があることから、一部の学校においては整備状況に不安の声も	学校図書館運営連絡協議会を設置し、各校の図書担当者間での情報共有やこどもたちのニーズの把握を進める
		全校に学校図書館専門員又は読書活動推進員を配置し、学校図書館が安定して運営されている状態	- 学校図書館専門員や読書活動推進員については引き続き全校配置を推進 - ただし、中学校における読書活動推進員の体制充実については課題	- 読書活動推進員を8日/月から10日/月に増加し、子どもたちのニーズに応えられるような時間帯の勤務に変更 - 図書館をこどもたちの居場所としても活用できるよう、更なる体制の充実を進める

施策 **お**：学校給食の着実な実施と保護者負担軽減

- 施策概要
- 心身の健全な発達や食育の観点から重要な学校給食について、給食室の改修や設備更新、実施体制の確実な整備等を通じて、着実な推進を図る。
 - 物価高に伴う給食費の上昇分については、今後も市として責任を持って負担するとともに、給食費無償化については、政府の動向を注視しながら実現に向けて検討を進める

指標 /振り返り /方向性	施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
	こどもたちが毎日安心して給食を食べることができるとともに、経済的に不安を抱える家庭にとってその給食費が過度な負担とはなっていない状態	残食率：小・中学校それぞれ10%以下	- 衛生面や栄養価の管理を行いながら給食を着実に実施した - 必要に応じ、設備更新や修繕を行った。（R7残食率：小学校5.3% 中学校17.9%）	- 衛生面や栄養価の管理を行いながら給食を着実に実施する - 必要に応じ、設備更新や修繕を行う
		国の動向も踏まえながら、給食費の保護者負担を適切に軽減できている状態	- 令和8年度4月から小学校給食費を無償化するため、条例改正を始めとした準備を行った - 物価高騰分について市費負担による保護者負担軽減を行った	- 小学校給食の保護者負担をなくし無償化を実施する - 中学校給食において市費負担による保護者負担軽減を図る

施策 **か**：学校における什器・設備等の充実

施策概要

- 児童・生徒がスムーズな学校生活が送れるよう教材教具や共通の消耗品・備品などを整備する
- 各校へ配当する予算のほか、机椅子・体育器具・遊具類の更新、学校からの要望の多い高額備品や楽器の購入を計画的に行う

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
学校における設備・什器が適切に購入・更新され、授業や学校生活が円滑に営まれている状態	高額備品購入費を毎年小中各1校以上に配当し、学校のニーズに応じた備品更新	小・中学校各1校に予算を配当し、学校配当予算では購入が困難な高額備品を購入することができた	小・中学校各1校に予算を配当し、学校配当予算では購入が困難な高額備品の購入を進める
	遊具・体育器具について、毎年1校以上更新	3校程度の遊具を更新できるよう予算計上したものの、急遽更新が必要となった1校の遊具更新にとどまった。	3校程度の遊具を更新ができるよう予算計上しているが、更新の必要性が高い遊具を優先的に更新していく
	児童生徒及び学校教職員が使用する机・椅子について、学校のニーズに応じて更新できている状態	児童生徒及び学校教職員の職場環境を整備できるよう机・椅子の購入をすることができた。全校を一括して更新することは困難だが、出来るだけ学校の要望に合わせて更新をしていきたい	児童生徒及び学校教職員の職場環境を整備できるよう机・椅子の購入予算を計上している。年度末に購入をすることにより、次年度の状況にも対応している

施策 **き**：学校における防犯・防災体制の充実

施策概要

- 各学校に学校警備員の配置を行うなど防犯環境を整備し、防犯訓練を通して児童・生徒の安心安全な学校生活を守る体制を整備する。
- 学区域における災害リスクを想定した実効的な防災訓練が実施されるよう、学校防災マニュアルの策定と見直しを行う。

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
学校における防犯訓練・防災訓練が計画的に実施され、内容の見直しが適切に行われている状態	全校で学校の防犯・防災等に関する計画が策定され、実効性について定期的に見直しが行われている状態	学校防災検討委員会と連携し、地震・津波、風水害を中心に、実効性が見直しの拠り所となる「学校防災マニュアル（学校防災アップデートの手引き）」を改訂した	「学校防災マニュアル」を踏まえて、各校における防災マニュアルの更新・改訂作業を実施していく
	防犯・防災等に関する実践的な研修の場が充実している状態	市内小学校で発生した職員用トイレ等へのカメラ設置事案を受け、当該校で緊急調査実施。防犯体制に課題	防災の他、防犯対策についても更なる検討を進める。具体的には、発生した事案を踏まえ、関係職員への服務研修の他、各校への抜き打ち検査等を進める
		防災教育重点校を指定し、実践の蓄積と成果の共有を図るとともに、管理職・防災担当者向けの研修会を通して、避難訓練の実効性を高めることの重要性を再確認	新たに「防災担当者会」を設け、防災担当者の研修機会の充実を図るとともに、津波リスクが高い学校においては、地域と合同での津波避難訓練を実施

施策 あ：生涯学習センター等の学習環境の充実



施策概要

- 市民の誰もが、いつでも手軽に学習できる環境を整えるため、施設の運営・管理を充実し、市民の求める学習環境を提供する
- 具体的には、老朽化した設備の更新や、学習センターにおけるフリーWi-Fiの整備等を進める

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
市民の誰もがいつでも手軽に、安心して学習できる環境が整備されている状態	生涯学習センター利用者数：350,000人/年	生涯学習センター利用者数：332,901/年	引き続き利用者数向上に努め、指標達成を目指す
	生涯学習センター利用者の満足度（設備）：60%/年	建物外壁の改修工事に伴い、玉縄分室において長期利用制限の期間（6ヵ月）があったことを考慮すると概ね指標は達成できた	引き続き設備等の充実のため、既存設備の修繕や更新を行っていく

施策 い：博物館の運営・整備充実・機能強化

施策概要

- 鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館について、それぞれ100周年・10周年の機を捉えながら、設備の整備充実を図るとともに、着実な運営を図る
- 歴史や文化を次世代に継承するため、「デジタルミュージアム」「フィールドミュージアム」の視点により博物館機能を強化する

指標
/振り返り
/方向性

施策の成功イメージ	指標	R7年度の取組/振り返り	R8年度方向性
「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」を通じて、鎌倉の歴史と文化を1000年後に伝えるための体制が整えられている状態	鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館の1日あたりの平均来館者数：国宝館180人/年、交流館80人/年	鎌倉国宝館では平常展1回、特別展6回を開催し、平均来館者数は181人で指標を達成した。鎌倉歴史文化交流館では年4回の企画展を開催し、平均来館者数は69人であった	鎌倉国宝館では、特別展を2回開催するほか、令和10年の開館100周年にむけた大規模改修を行う。鎌倉歴史文化交流館では年4回の企画展を開催するほか、令和9年の開館10周年事業及びその後の改修に向けた準備を行う
	鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館の来館者の満足度：80%/年	鎌倉国宝館の来館者満足度は、大変満足・満足あわせて約93%と大変高い評価を得た。また鎌倉歴史文化交流館も、大変満足・満足あわせて約93%となり、大変高い評価を得た	鎌倉国宝館の来館者満足度については令和7年度の評価を維持できるよう引き続き取組を行っていく。鎌倉歴史文化交流館においても令和7年度の評価を維持・向上できるよう取組を進めていく
	フィールドワークの実施回数：6回/年	基本計画策定前のためフィールドワークは未実施であるが、令和8年の策定に向けて、2回の「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画等策定委員会」を開催したほか、パブリックコメントを実施し、広く市民から意見を募集した	基本計画を策定したのち、ワーキンググループを設置し、「デジタルミュージアム」及び「フィールドミュージアム」の具体的な運営方針を検討した上で、フィールドワーク等の事業を実施していく

施策 **う**：図書館サービスの維持・向上

施策概要

- 「鎌倉市図書館ビジョン」の実現に向けて、環境整備と人材の育成、知識や情報のハブとなる資料の充実を推進するとともに、読書バリアフリーを含めた図書館サービスの向上を図る
- 新施設における図書館の整備を見据えながらこれからの図書館を考えるとともに、現在の各図書館についても市民が安全で快適に過ごせるよう設備を充実させる



施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
誰かが利用しやすく、全市民の知識/情報のハブとなる「つながる・ひろがる・100年図書館」が実現されている状態	- 図書の新規受入点数/蔵書点数 - 開館日1日当たりの来館者数（5館合計）：現状維持以上 - 職員の研修参加延べ人数：370人/年	- 蔵書新鮮度0.04は前年並みだが、寄贈資料等も活用し積極的に新刊を蔵書とするよう努めた - 一日当たりの来館者数は+53とやや増加 - 読書バリアフリー法に基づく障害者サービス関連の研修や、児童図書館員専門養成講座など専門的な研修の受講、スキルアップにつながる研修の受講に留意し、内部研修、業務外研修も合わせると、延べ人数は約360人と前年度並みとなった	- 新刊にとどまらず市民のニーズに合った幅広い資料の収集を心がけ蔵書を充実させていく - 読書バリアフリーに努めどんな人でも使いやすい図書館を目指す。施設や備品の修繕等、居心地の良い環境づくりを進める - 積極的な研修の受講だけでなく、内部への還元も行い、知識の習得やスキルアップに生かし、利用者へのサービス向上につなげる。年数や担当業務等、それぞれに合った研修を受講できるようにする

施策 **え**：こどもの読書環境の整備

施策概要

- こどもたちの豊かな読書環境を、家庭・地域、学校、図書館・行政が連携して整備する
- こどもの居場所としての図書館のサービスや施設整備の検討を進める

施策の成功イメージ	指標	R7年度取組/振り返り	R8年度方向性
豊かな読書環境のためのヒト・モノが整備され、こどもたちがいつでもどこでも楽しく本とつながることで、自ら学ぶこと、考えることを楽しんでいる状態	- 児童書の新規受入点数/児童書の蔵書点数 - 図書館を通じて学んだ人材の人数 - おはなしボランティア関連の講座 延べ200人 - 司書教諭・学校司書等と連携した研修講座 延べ500人 - こども・保護者向けのイベントや、施設内の環境改善を通じて、図書館がこどもの居場所となっている状態	- 開架している児童書の蔵書新鮮度は0.051であった - おはなしボランティア関連の講座を7回実施、延べ145人 - 司書教諭や学校司書と公共図書館職員合同の研修を2回実施、延べ約130人が参加 - 子ども・保護者向け行事を246回実施、5,020人参加 - 未就学児の保護者と市内100の子ども関連施設にアンケートを行い読書環境の実態と要望を把握した。要望のあった22施設にリサイクル本を414冊譲渡し、読書環境の改善に努めた	- 引き続き基本図書の買い替えに努めるとともに、多様な選書ツールを活用して、新刊を購入し、蔵書新鮮度の向上を図る - 引き続きおはなしボランティアを養成し、継続した交流・学びの場を作る。公共図書館職員と司書教諭・学校司書との交流に努める - 引き続き、図書館で様々なイベントを実施する。図書館のゾーニング（複合化のレイアウト等）について学ぶ機会を設け、図書館がこどもの居場所となるように工夫していく

指標
/振り返り
/方向性